



故事成語 3

故事を読んで、その故事からできた言葉がわかる

月 日
名 前

■ 次の話をもとにしてできた言葉を から選んで記号で書きましよう。

(1) シギという鳥が、貝を見つけて食べようと思いました。貝は食べられたくないので、貝がらでシギのくちばしをはさみました。シギは貝を食べたいのでくちばしをぬきません。貝も食べられたくないので、シギのくちばしをしっかりとさんではなしません。おたがいに、そのままの状態がまん比べをしていると、漁師が通りかかりました。

「こんなところにシギと貝がいるぞ。」

漁師は、シギと貝のどちらもつかまえてしまいました。

(ウ)

漁夫の利…二人が争っているうちに、関係のないほかの人が得をする。

(2) 秦という大国の王様が、趙という国の王様に、「趙の国の宝物である『壁』と十五の城を交かんしよう」と持ちかけてきました。しかし、趙の使者が「壁」を持って秦に向き、秦の王様と話をしたところ、「十五の城と交かんしよう」という話はうそで、「壁」だけをうばいとうとしていいることがわかりました。そこで使者は、命がけて「壁」を守りきり、ついに完全な状態で趙に持ち帰ることに成功したのです。 ※秦の王様の話がうそだとわかって、趙の使者がすさまじくおこったことからできた言葉が「怒髪天をつく。」

(ア)

完璧…少しの欠点もなく、完全な。

(3) 杞という国に、天が落ちてきたり地がくずれたりして、身の置きどころがなくなることを心配する人がいました。そして、心配のあまり、夜もねむれず、ご飯も食べられなくなりました。見かねた知人が、天が落ちたり地がくずれたりするようなことはないと言明してあげると、この人はやっと安心することができたのでした。

(イ)

杞憂…しななくてもいいような心配をする。 「憂」は「心配する」という意味。

ア 完璧

イ 杞憂

ウ 漁夫の利

